JARMAM Vol. 31(1), p. 81-82, 2021

投 稿 規 定

■投稿規定

1 「臨床微生物迅速診断研究会誌（JARMAM）」は感染症の診断領域に関する投稿論文で，他誌に未発表なもの（原著，症例報告，短報，技術解説等）および学術集会記録，研究会告示，研究会報告，業務経過等を掲載する．

2 原稿は邦文または英文で書かれたもので，用紙は本文，図表とも，すべて A4 版を用いる．

・36×36 字詰（日本語）とし，余白は上下左右ともに 25 mm 程度とする．

・文字の大きさは，11 ポイント程度とする．

・行番号を付ける．

3 原稿の形式

・原著論文は，論文表紙，要旨，序文，材料と方法，成績，考察，謝辞（必須ではない）．文献，表，図，脚注，英文要旨の順に整ったものとする．

・症例報告は，論文表紙，要旨，序文，症例，考察，謝辞（必須ではない），文献，表，図，脚注，英文要旨の順に記述する．

・短報は，論文表紙，要旨，本文（序文，材料と方法，成績，考察に相当する部分は段落で区切る），謝辞（必須ではない），文献，表，図，脚注，英文要旨の順に記述する．

・技術解説は企業の製品紹介であり，形式は定めていない．掲載料は 1 ページ（約 2,500 字，36×36 字詰 2 枚換算）当たり 20,000 円とする．

・論文表紙には，原著，臨床症例，短報，技術解説と明記し，以下のことを記載する．
表題，著者名，所属施設，所在地（以上和英併記），電話番号，メールアドレス，キーワード（英語 5 つ以内とし，表紙の下段にキーワードと記して列挙する），ランニングタイトル（邦文 20 文字，英文 7 単語以内）．

・重複投稿はない旨を誓約したカバーレターを添える．

・要旨は 2 種とし，英文ならびに邦文とする．英文要旨は英文 500 語以内，邦文要旨は邦文 600 字以内とする．

・表紙から最後の英文要旨まで，頁の通し番号を用紙下段中央に記入する．

4 原稿の長さ

原稿は約 13,000 字（36×36 字詰 10 枚換算）以内とし，図，表，写真，文献を含む，また症例報告，短報，技術解説は約 4,000 字（36×36 字詰 3 枚換算）以内（図表 2 点，文献 5 題以内）とする．なお図表等は約 200 字として換算する．カラーの図表を用いる場合は投稿時に明示すること．

5 微生物名は学名を用いて記載する．最初はフルネームで記載し，二度以上使用する場合は，属名だけを略し，種名は略さない（例：*Escherichia coli*，二度目以降は *E. coli* とし，ピリオド「.」の後は，半角 1 スペースを空ける）．

化学薬品名はフルネームで記載し，二度以上使用する場合は，略号を（　）内に記す．例えば，sodium dodecyl sulfate（SDS），polyacrylamide gel electrophoresis（PAGE）などとする．

抗菌薬の略号は，日本化学療法学会制定のものが推奨される（日本化学療法学雑誌巻末参照）．

登録商標名を使用する際は，®や ™ は使用せず，カッコ内に会社名を明記する．

6 数字はアラビア数字を用い，数量の記号は cm, mm, μm, nm, l, dl, ml, kg, g, mg, μg, ng, pg, ℃, %, hr（h），min, sec（s）などを用いる．符号の後に点をつけない．

7 図，表はすべて英文とし，Fig. 1, Table 1 と必ず番号を記し，内容が十分理解できるように脚注の欄を使用して，英文の説明文を簡潔に記載する．Fig., Table の挿入場所を本文に赤文字で指定する．

8 利益相反に関し，投稿論文に関連する研究助成（企業からの研究委託も含めて）については，助成機関（依頼企業），助成番号（委託番号）を記す．該当する利益相反がない場合も「申告すべき利益相反なし」と記載する．

9 文献は，本文中の著者名の右肩に片カッコ付で引用順に番号を付し，その番号順に文献の部に下記の例にならって収載する．

1） Isenberg, H. D., T. L. Gavan, P. B. Smith., A. Sonnenwirth, W. Taylor, W. J. Martin, D. Rhoden, and A. Balows (1980): Collaborative investigation of the Auto Microbic system *Enterobacteriaceae* biochemical card. J. Clin. Microbiol., **11**: 694-702.

Presented by Medical*Online

2） Sonnenwirth, A. C.（1977）: Preprototype of an automated microbial detection and identification system: A developmental investigation. J. Clin. Microbiol., **6**: 400–405.

3） Facklam, R. R. and R. B. Carey: Streptococci and aerococci, pp. 154–175. In E. H. Lennette, A. Balows, W. J. Hausler, Jr., and H. J. Shadomy. Manual of Clinical Microbiology, 4th ed. American Society for Microbiology, Washington, D.C., 1985.

4） 江崎孝行，劉　樹林，竹内典子，山本啓之，藪内英子（1987）：Photo-biotin 標識 DNA を用いた嫌気性菌の迅速同定法の研究．嫌気性菌感染症研究，17: 207–212.

5） 駒形和男：細菌の分類と同定（1）好気性菌．pp. 203–246．長谷川武治編．微生物の分類と同定．東京大学出版会，東京，1975.

なお，著者 5 名以下は全員，著者名が 6 名以上になる場合には，下記の例示にならって記載する．

6） 由良二郎，他（1986）：化膿性腹膜炎に対する Imipenem/Cliastatin Sodium と Ceftizoxime の薬効比較試験．Chemotherapy, 34: 713–738.

10 倫理規定について，人体を対象とした研究では，ヘルシンキ宣言に述べられているように，科学的および倫理的規範に準ずる．被検者には研究内容についてあらかじめ十分に説明し，自由意志に基づく同意（インフォームドコンセント）が必要である．わが国の国家の指針に則ることはもとより，研究課題によっては，所属施設の倫理委員会またはこれに準じるものの承認が必要となる．

11 原稿の採否および掲載時期は編集委員会に一任する．

12 投稿者（筆頭）は必ず会員または賛助会員であることが必要．共著者は会員以外も可能である．

13 著者の校正は原則として 1 回とし，それ以降は誤字の訂正程度とする．

14 別刷は 30 部まで無料，それ以上は有料とする．所要部数は著者校正時に明示し，別刷送付先を記載すること．

15 原稿は下記宛，メール添付または CD-ROM で送付する．

〒173–8610　東京都板橋区大谷口上町 30–1
日本大学医学部附属板橋病院　臨床検査部
西山宏幸
TEL 03-3972-8111（内線 3985）
E-mail: nishiyama.hiroyuki@nihon-u.ac.jp

Presented by Medical*Online